

夢湧き夢に夢中

第 3 号

令和 7 年 5 月 2 日 文責：大谷

藤井 聡太 七冠(現在)が祖父母から将棋の手ほどきを教わったのは、わずか五歳のときだった。しかし、それから瞬く間に将棋のルールを覚え、しばらくもせずして祖父は五歳の孫に全く歯が立たなくなったそう。

十四歳でプロ棋士としてデビュー。六十二歳差の加藤一二三 九段とのデビュー戦は、当時大きな話題となった。さらに、その後は数々の最年少記録を次々と打ち立て、二〇二三年には史上初となる「八冠」を達成。岸田前首相(当時)から総理大臣顕彰を授与された。そのときに、顕彰の返礼として岸田前首相に贈った将棋盤に藤井七冠が記した言葉が、「雲外蒼天」だった。「雲の上には青空が広がっているということで、努力をしてさらに実力を高めていくことで、これまでと違った景色が見える、いう意味を込めて書いた」そうだ。二十一歳の若者から人生の教訓ともなり得るような言葉を教わった。なんてポジティブな言葉なのだろうと思ったことを思い出す。

先日、令和七年度の本校の生徒会スローガンが示された。「雲外蒼天く夢の実現に挑む」である。生徒会長の佐藤くるみさんが、まずこう切り出した。

「『雲外蒼天』とは、どんな困難や試練でも努力して乗り越えれば、必ずよい未来が訪れるという意味です。この生徒会スローガンには、壁にぶつかっても、全校生徒で協力して乗り越え、自分の夢に向かって一生懸命突



き進んでいこうという思いが込められています」

「夢」という言葉は、とてつもないエネルギーをわたしたちに与えてくれると、わたしは信じている。しかし、一方で夢を叶えるという過程には困難もあり、ときには挫折することがあり得ることも承知している。だからこそ困難に直面したときに「雲外蒼天」を思い出したい。どんな曇天であろうとも、諦めなければ必ず雲の上の青い空が見られるはずであり、そこに仲間がいれば、晴れない空なんてないのである。佐藤生徒会長の言葉に強く背中を押してもらったように感じた。いっそう活力が湧く。

さらに、副会長の和田 帆夏さんが、夢の実現にどう挑むか、続けた。

「去年の生徒会スローガンは『創造』。今年は『創造』したものを実現することに力を入れていきたいと考えています。夢は目標とも言換えることができ、夢の実現というのは、自分の将来の夢のことだけでなく、部活動で賞を獲ることや今日は三時間勉強しようなどといった身近なことも含まれます。人は目標を立てることで、そのゴールに向かって本来以上の力を発揮することができるのです。今年度は、自分で夢や目標を立て、それを実現することに全力で挑戦する一年にしていきたいと思います」

五月を迎えた。二週間後には、今年の叶えたい夢のひとつである体育大会が、さっそくやってくる。幾多の分厚い暗雲が目の前を阻もうとも、仲間と力を合わせて乗り越え、その先の最高の空色を見に行こう。「さあ、最初の夢の実現に挑め！」

■先日の授業参観・PTA総会及び懇談会では、お忙しい中多数ご参加いただき誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。来週には除草作業も予定されています。1年間大変お世話になります。

■学校栄養職員として勤務いただいていた市原先生が5月から出産のための休暇に入られましたので、後任として平畑 恵理佳 先生が着任されました。今週からさっそくおいしい給食をいただいています。1年間よろしく願いいたします。